

事業報告

NEC 森の人づくり講座/2007・夏

開催日:2007 年 6 月 16 日～20 日

13年という長い年月を、NECというひとつの企業に支えられてやってこられたということには大きな意義があります。今年は、「企業の CSR 活動の一環としての講座」の位置づけを明確にするにあたり、学生たちに CSR についての小講義も開くことができました。

環境教育に関心のある学生を、全国から募集しているこの講座では、社会に羽ばたいた後に各方面で環境教育のリーダーシップを発揮できる人材を育成するために、以下の点に考慮して構成をしました。

- ・前期生・後期生のつながりの中で、人の輪をどう生かすか。
- ・「森林問題」に具体的解決を試みることで、知識をどのように腑に落とすか。
- ・講座で学んだことを、企業の中でどう生かすか。

このねらいを十分に感じ、実践していける人材を養成するこの講座。A コース:オークヴィレッジ/森林たくみ塾と B コース:キープ・フォレスターズスクールの2コースに分かれてどのように開催されたか、それぞれの5日間を、以下に報告いたします。

プログラム紹介

Aコース

オークヴィレッジ／森林たくみ塾

場所

岐阜県高山市清見町

●講座のねらい

- 13期生：「自分たちが講座で得たもの、学んだもの」を、自分の言葉として14期生に、「いかに伝えられるか」
- 14期生：環境問題の解決のための「具体的行動のひとつ」として「森の手入れを理解する」

●講座中に伝えたいこと

- ①問題の解決には、考えるだけでなく具体的な行動が必要
- ②地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定機能への期待感
- ③その機能を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない
- ④一本一本の木が元気になることで森全体の機能が高まる
- ⑤一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す
- ⑥人の環＝人を束ねる仕掛けづくり（ネットワーク）
- ⑦森の手入れをおこなうにあたって、道具の的確な使用法と安全な作業について理解する

●そのために大切にしたいこと

- ①森での実践的な活動を主軸とする
- ②森づくり活動は、モノづくり（利活用すること）と結びつくことでより意義が深まる
- ③体を使って実体験する（頭でっかちにならない！）
- ④何事もやってみる（やらなきゃ何も進まない！）

●プログラム進行表

第1日目／6月16日（土）

この日のテーマ：「森の人」に出会う日

- 14:00 受付開始
- 14:30 開講式／インフォメーション
- 14:50 アイスブレイク
- 15:10 移動
- 15:40

14期生	実技「森の手入れということ」
13期生	実技「私たちのやったこと」
- 16:40 移動
- 17:00

14期生	意見交換「なぜ森の手入れが必要なのか」
13期生	討議「14期生にどう伝えられるか？」
- 17:30 フリータイム
- 18:00 夕食
- 19:00 「森の人」との出会い
- 21:00 終了

第2日目／6月17日（日）

この日のテーマ：受け継がれるもの（伝わるもの）

08:00 朝食
09:00 移動
09:30 14期生 実技「森づくり事始め/兄弟子あにでしに付く」
13期生 実技「森づくり事始め/弟弟子おとうとでしに伝える」
10:30 移動
11:00 14期生 ふり返り「やってみてどうだったか」
13期生 ふり返り「森人をつなげるために」
11:30 小講義「森林計画：林業白書を読み解く」
12:00 昼食
13:00 NEC さまより『企業の社会貢献活動』
13:30 「森人がつながる」（引継ぎの儀）
14:00 13期生送り出し
※※※ ここから14期生のみ※※※
14:30 小講義「森の手入れの必要性」
15:30 移動
16:00 実技「まずは安全作業から」
17:00 移動
17:30 フリータイム
18:00 夕食
19:00 スタッフとともに
20:00 終了

第3日目／6月18日（月）

この日のテーマ：森づくりの実感（伝えるもの）

08:00 朝食
09:00 小講義「作業計画」
09:30 移動
10:00 実技「森づくり計画編」
12:00 昼食
13:00 実技「森づくり実践編」
16:30 移動
17:00 ふり返り
17:30 フリータイム
18:00 夕食
19:00 スタッフとともに「スライド上映～前半をふり返って」
20:00 終了

第4日目／6月19日（火）

この日のテーマ：モノづくりへ広がる森づくり

08:00 朝食
09:00 小講義「人と森のつきあい方」
10:00 実技「森づくり・利活用編」
実技「森のモノづくり」
12:00 昼食
13:00 実技「森のモノづくり」延長戦
16:00 オークヴィレッジ・ショールーム見学
17:30 フリータイム
18:00 夕食
20:00 森人大交流会

第5日目／6月20日（水）

この日のテーマ：つながるために

08:00 朝食
09:00 小講義「人の環づくり」
10:00 スライド上映
10:30 ふり返り
12:00 昼食
13:30 全体ふり返り
15:00 閉会式、記念撮影、解散

1日目：「森の人」に出会う日

交通事故による渋滞に巻き込まれ、高速バスで遅れてくる受講生が3名。同じバスに乗り合わせていたのに、お互いを知ったのは高山駅に到着をてからのこと。人というものは、ちょっとしたきっかけで出会ったり、すれ違ったりするものだ。それを考えると、今回この講座に集った13期生7名、14期生10名の出会いには、偶然とはいえなくても大切な意味合いが含まれている。13期生の中には、試験日と重なったり、就職先の研修が急に決まったり、すでに就職した受講生は、直前に仕事が入ったりとキャンセルが相次いだ。しかしそれについて残念に思う必要などなかった。キャンセルした彼女たちからは、同期生・後輩たちにとっても熱いメッセージが送られてきたからだ。人との出会い・つながりをとても大切にするのが、この講座に集う若者たちの特徴だ。



開講式

次々と受け付けに集まる受講生たち。13期生たちは久しぶりの再開に既に沸き立っている。一方で14期生は、のっけからテンションの高い13期生に押され気味で表情も硬い。これからどんなことが始まるのだろうかと期待と不安でいっぱいのようなのだ。10期および11期の修了生も合流して、NEC 森の人づくり講座/2007・夏が始まった。



はじまりの挨拶

森林たくみ塾の佃が「はじまりの挨拶」に立ち、NECのサポートによって13年目を迎えるこの講座の意義を改めて伝えた。

『この13年間で世の中はいろいろ変わったが、変わらないのが森の手入れが進まない現状です。そこで環境問題の具体的解決策として「森を元気にする」ことを実践します。キーワードは「森、人と繋がる」です。知識の吸収だけで終わらず、自分で行動して確かめてみるのが大切です。心の底から納得すること。それを「腑に落ちる」といいます。』



アイスブレイク

今回の講座には、どんな人が集まってきたのだろう。おたがいに聞いてみたいことはたくさんあるのに話の糸口が見つかりません。そこで、「自然」をお題に、「自然の中で〇〇をした事のある人！」でフルーツバスケットをしてみました。さて、気分がほぐれたと同時に、お互いが見えてきましたか。「木に登ったことがある人」「チェーンソーを使える人」「夜、森を歩いたことがある人」おやおやたくさんいますね。



活動地へ移動

今年は新たな活動地へ展開していくことになった。植樹から10年目の、「これから森になる」ための作業が待たれる場所だ。

実技「私たちのやったこと」13期生

13期生たちは、新たな活動地での新たな作業を前にして不安がふくらみ始めたようだった。

なぜ木を伐るのか？前期講座では森の木を伐ることに非常に抵抗を感じた13期生だった。気持ちの整理が十分に出来ないままでは、「森の木を切ることが森を元気にすることにつながる」ということを14期生に伝えることは、難しそうだった。そこで新活動地に入る前に、前期講座のふり返りをしっかり行なった。活動地が違って森を元気にするということは同じ。前回の作業内容とその意味合い、そこで学んだことをふり返り、その基本概念を改めて確認した。

討議「14期生にどう伝えられるか」13期生

そして前期講座で学んだことをどのように新活動地に生かすのかを考えた。森を元気にするために、どのような作業を行なったらよいのだろうか？作業計画と段取りも考えて、14期生にどのように伝えたらよいかを考えた。



実技「森の手入れということ」14期生

14期生は、さっそく初めての活動地に向かって入っていった。そこは皆伐跡地に10年前、ドングリの会が広葉樹を植樹した森だった。当時の写真と見比べると10年間で森の成長が一目で分かる。皆伐された禿山が、一面緑の森に変わっている。

14期生にテーマが与えられた。「森の手入れとは何だろう？」「これから森になる発展途上の姿を前にして、何が見え、何が感じられるか？」「自分一人でもできること、10人集まればできることは何だろう？」

森についての予備知識もないままに、森から何かを感じようと、14期生は思い思いに森の中に散らばっていった。しゃがみ込んでみる者、木立に寄りかかって空を見上げる者、ゆっくりと歩き回る者、それぞれのスタイルで見えてくるものを探し始めた。





意見交換「なぜ森の手入れが必要なのか」14期生

宿に帰り、自分たちの感じたことを意見交換した。「雪の重みや光を求めた結果、斜面の樹木は曲がっている」「光の当たり具合で成長が良くなる」「笹藪は木にとって邪魔なものなのか？」「風通しは良い方がいいのか、良過ぎてもだめなのか？」「人が手を加え続けなければいけないのは、不自然ではないのか？木は植えなくても自然に生えてくるのでは？」「木を伐った後は、どのように処理したらよいか？」

教えてもらったことをたくさん覚えることよりも、素直に疑問に思うことの方が重要だ。

14期生に再度問いかけ。「森の手入れはほんとうに必要なのか？」その答えが知りたいのに、逆に質問をされて戸惑う14期生たち。

広葉樹林の手入れの方法は現代の日本ではまだ確立されているとは言えず、その答えを探ることの重要性を知る。答えを覚えるように教育されてきた学生には、まだ見えぬ答えを見つけると言うことは戸惑いを感じるとともに、新鮮に映ったようだ。

いっぱい疑問が頭を巡る中、夕食の時間となって、しばしの休憩タイム。



「森の人」との出会い

夕食後は、プログラム上での13期生と14期生の、初めての出会いの場。14期生にはどんな森人に会いに来たのかを1分間スピーチで話してもらった。人前で話すのが苦手、シャイな面々が多いようだが、内に熱いものは秘めているようだ。自分を表現することが多少苦手なようだ。

13期生からは、この半年間で変わったことを3分間スピーチで話してもらった。

「ライフスタイルが変わった。モノを使うことが大切に思えるようになった。人と人のつながりの大切さを感じるようになった。」この講座に参加したことが、13期生たちに何かしら変化のきっかけを与えたようだ。

2日目:受け継がれるもの(伝わるもの)

実技「森づくり事始め」



13期生の^{あに、でし}兄弟子が、14期生を^{おとうとでし}弟弟子として引き連れて

森に入り、2班に分かれて作業に入った。どのような森にしたいのか、どの程度の木を伐るのか、間伐にどんな意味があるのかを兄弟子が弟弟子に説明をしていく。そして今日の作業内容を、実践を交えて伝えた。親方(スタッフ)の見守る中、兄弟子は弟弟子に説明をすることで自らの理解を深めていったようだ。

ふり返りでは、兄弟子から何が伝わったかを、弟弟子からフィードバックしてもらった。体験を通して全てが分かったわけではない。「判らないことで立ち止まってしまうより、悩みながらも進めていけばよい」とは、兄弟子からのアドバイスだ。



小講義「森林計画:林業白書を読み解く」

平成18年度・森林・林業白書の紹介を通して、国、自治体の森林に対する考え方が変わってきたことを説明した。大きな変化として、

- ①広葉樹林の大切さが盛り込まれるようになった。
- ②NPOと協力した森づくりを進める方針が明確になった。

この講座の活動は、まさに林業白書を先取りしているともいえる内容だ。



NECより「企業の社会貢献活動」

NEC CSR推進本部・社会貢献室の山辺さんより、NECが取り組むCSR活動の紹介をしていただいた。

環境問題への企業の取り組みが、考えていたより進んでいる現状を目の当たりに見せられた気がした。かつての「企業＝利益追求で環境問題を省みない」の模式図はどこにも見当たらない。ある意味で、企業のほうが考え方も行動も先駆的だといえる。環境問題に開眼した学生が進路で環境NPOやNGOへ進むか、「諦めて」企業に就職するかといったことで悩むことに意味の無いこともわかった。学生も含め、環境教育に携わる私たちにも大きな収穫だった。





「森人がつながる」(引継ぎの儀)

13期生には本当に短い二日間。一人ずつ言葉をももらったが、伝えるべきことの半分も伝えきれず、涙ぐんでしまう人も。

「人とつながることの大切さ」、「伝えることの難しさ」、「一本筋を通せるものを見つけたい」、「自分の武器をもつ」、「何をやってきたかが大切」、「最後は人柄」などなど、一つ一つ噛みしめた言葉が出てきた。昨日出会ったばかりとは思えないほど、別れが惜しいものとなった。しかしこれは別れではない。つながりを次につなげることが始まったのだ。



小講義「森の手入れの必要性」

13期生を送り出した後、14期生だけになって、講座はいよいよ佳境へ。どうして森を手入れしなければいけないのかを、スライドを交えて伝えた。森林がどれくらい炭素を固定するのか、水をどれくらい蓄えるのかなど、森の働きについても理解を深めた。

実技「まずは安全作業から」

山での作業は、一歩間違えば危険と隣り合わせの作業となる。それ故に自分の身は自分で守る、危険を避ける心掛けが重要だ。服装の確認、道具の安全な使い方から始まり、危険予知トレーニング(KYT)で、安全確保の方法を学んだ。

スタッフと共に

夕食後の時間は、スタッフを別の角度からも知ってもらおうと、各スタッフに、それぞれのテーマで話をしてもらった。

環境教育だけに籍を置いていない、奥行きと深みのあるスタッフ像が伝わっただろうか。





3日目:森づくりの実感(伝えるもの)

小講義「作業計画」

森づくりは、長い時間軸上でとらえなくてはならない。森の成長の過程(遷移)の、どの状態にあるのかを理解しておくことは、森づくりでは重要なポイントとなる。手を加えなくても森になるのではないかという疑問や里山の維持活動なども、「遷移の退行」という語句を理解しておく、理解がしやすくなってくる。



実技「森づくり計画編」

遷移の進んだ森として、近くにある広葉樹林を見学した。思い思いに森を感じ取る中、スタッフが朽ちた倒木を手に、ぎゅーと搾ると大量の水が滴り落ちるのには驚きの声。成長した森の将来像がイメージできたところで活動地へ移動。昨日まで学んだことを生かし、2グループに分かれて作業計画を立てた。



今日のお昼は、山の中での弁当、飛騨名物の朴葉寿司だった。目の前にある朴の葉が、食べ物を含むものとして活用されていることに妙に納得しつつ、朴葉でコップを作ってお茶を飲んでみたり、刈り払った笹の葉をお茶にして飲んでみたりと、森を味わうお弁当の時間をすごした。



実技「森づくり実践編」

伐る樹と残す木を選びなが、森をどんどん切り開いていく。入るのを躊躇するような藪だったのに、短い時間の作業であっという間に人の入りやすい明るい森になってきた。樹齢70年余りの古い切り株があらわれた。かつてはこんな大木がこの森を埋め尽くしていたのだろう。この切り株のおかげで、70年先の森に思いを馳せることができた。



スタッフとともに(スライド上映)

森づくりが今日で終了したので、夕食後はスライドショーで前半をふり返ってみた。たった3日間の出来事なのに、たくさんの出来事が走馬灯のように駆け巡る。濃厚なプログラムの3日目が終わる。



4日目:モノづくりへ広がる森づくり

小講義「人と森のつきあい方」

日本とアメリカで、人が森とどのようにつきあってきたのか、スライドを交えての小講義。

森づくりの先にあるモノづくりの事例も見ながら、先人の知恵に学ぶことの重要性を感じた。



実技「森づくり・利活用編」

現代社会ではあらゆる場面で、中間のプロセスというのは見えてこないことが多い。ここでは樹木が材木へとになっていくプロセスを簡易に再現してみた。鉋で丸太を割って四角い材料にしていく。さらに割っていくと薄い板になる。

電動カンナで表面を削るとざらざらした肌がつるつるになってきた。

「木材の乾燥」を理解するために、朝伐ったヒノキと3年前に伐ったものを持ち比べてみた。その重さのあまりの違いに感嘆の声が上がる。手で触り、匂いを嗅いで、五感で感じる力のすごさをそれぞれが再認識しているようだ。判るっていいことはすごいことだ。



実技「森のモノづくり」

森の資源の有効利用を探る。まずは手慣らしで小枝のハシづくりに挑戦。鉛筆を削ったことのない世代なのですね。それなりに苦戦しているようだ。手の延長として道具を使いこなすって、難しいものだ。ハシを作り終わると、スプーンやフォーク、おちょこなどそれぞれに考えた作品作りに移行していった。限られた道具と未熟な技術の中で、形にする苦労と直面。あっという間に過ぎていく時間の中で、自分の手で形を生み出す喜びにのめりこんでいった。

オークヴィレッジ・ショールーム見学

自分たちでモノづくりの楽しさと大変さを味わった後、プロの職人が木材をどのように使ってモノづくりをしているのを見に行くことにした。木の癖の生かし方、木目の使い方、適材適所に材料を使うことが、長く使える家具づくりだということ学んだ。

森人交流会

夜遅くまで、最後の夜を楽しんだ。会話を交わした人とはお互いの名札にサインをすることにした。みんなの名札が両面、サインとメッセージで埋めつくされた。





5日目:つながるために

小講義「人の環づくり」

昨日のモノづくりで、皆がかなりのめり込んでいたので、今朝は、道具を使う話から始めることにした。道具とは、身近な存在であること。モノづくりも日常的なものであってほしい。だから日曜大工を復権させよう、などなど。

続いて、「人の環づくり」へと話しは進んでいく。

一人で何かをするよりみんなの力をあわせて行なったほうが大きな力になる。そのときに必要なのが企画力。思いを社会的・物理的条件に照らし合わせながら検証し、与件を整理して企画を立てていく。それによって「思い」は継続し、実現へと近づいていく。

スライド上映

全日程5日間を改めてスライドでふり返る。この後のソロでのふり返りにつなげる内容となっていく。



ふり返り

昼までの時間を、仲間から離れ独りきりになって過ごした。贅沢な時間の過ごし方だ。道端に寝ころがったり、沢沿いで涼んだり、好きな時間を過ごして、この5日間をゆっくりふり返り、自分の「腑に落とす」ことに向かった。



全体ふり返り

スタッフの言葉、

『内気な部分があり、取っ付きにくさもある14期生だったが、お互いに共通する熱いものを持っていることに気づくことが出来たのではないかな。後期講座に向けてつながりを作っていくことが大切だ』

『NEC 森の人づくり講座は最初の10年間、環境教育指導者の養成を目的にやってきた。11年目からは環境問題を具体的に解決するために何をするか、それを行動に移して活動することを期待する。』

解散

全員で記念撮影。半年後の成長に期待しつつ、後期講座での再開を約束して、岐路に着いた。



**■A コース:オークヴィレッジ/森林たくみ塾
講座終了後の受講生の感想です。**

・森が私たちに与えてくれるものには限りがない。森は偉大、優しい、強い、恐ろしい、命、そして友達だと思えた。森と人が会うことで、人は森の仲間たちだけでなく自分とも出会える。そしてこの素敵な仲間たち（スタッフと学生みんな！）。森の力もすごいけど、人の力もすごい。考えることって苦痛じゃない。答えはないけど自分たちの理想・未来・今・過去を語るって、本当に素敵なことだ。好きなものが増えた。本当にうれしい。感謝でいっぱい。

・環境に関心を持つさまざまな学生に出会えてよかった。森の手入れからモノづくりまでのプロセスがうまく機能していてわかりやすかった。ネットワークや環境教育も深まり、とてもいい五日間でした。

・きっとおもしろい人が集まってくるはず、という私の予想は的中した。それぞれの話がおもしろくて、引き込まれた。それぞれ遠くの活動がつながっているように思う。今までとても感覚的にさまざまな場面で選択してきたけど、これからは良く見て気づけるようにしようと思う。とても楽しかった。来てよかった。

・大学で環境のこととか専攻してなくても、入りやすいプログラムだった。仲間、スタッフとの協力、信頼がとても大きな支えとなった。

・環境に知識がない人でも全然平気です。人とのつながり、人間関係、討論などとても勉強になりました。自分がわかります。成長絶対！

・多くのことを感じることができます。出会いがあります。

・どんな形からでもいい、自然と生活をつなげよう。「元気な森」は世界を救う。「木」っていいね。

・このプログラムに参加して、自然とかかわることが大好きになりました。このことが今後の自分の環境活動に大きく影響すると思います。